

健康長寿に係る先進的な取組事例(概要版)

地域ぐるみで取り組む糖尿病透析予防

運動

食

団地まるごと

その他

事業概要

医師不足が進む地域において、糖尿病重症化予防、特に糖尿病透析予防は医療費適正化の上でも重要な課題である。行政と地元医療機関、食生活改善会が連携・協働し、減塩を基盤とした地域ぐるみの糖尿病透析予防を実施し、eGFRの急速な低下を阻止することができた。データヘルスの新たな展開の始まりである。

事業内容(参加者数・予算等)

- 病院と行政保健師の合同勉強会の開催(定例月1回)
疾病管理マップの導入: 病院内の糖尿病患者の検査データを集約し、階層化して介入する際の共通ルールを多職種で作成。
指導ツールを協働作成 情報共有ツールの作成
- 療養指導の実際(H25. 11月～ 2名)
病院の医師・看護師・管理栄養士と町の保健師が協働で、継続的な療養指導を実施し、行動変容を支援。
- 症例カンファレンス(毎月1回 実施)
多職種共同でカンファレンスを実施し、効果を検証しながら継続支援。
- 見える化
eGFRをJMPシートに入力し Δ eGFRから透析導入時期を予測し、本人への指導をはじめ学術集会、研修会等で発表。
(日本糖尿病学会講演会一般演題・慢性疾患重症化予防学会夏のセミナーポスターセッション発表・日本医療企画主催 データヘルスセミナーで先進事例として講演。)

事業効果

- 減塩指導・飲水指導の結果、臨床指標の上では、血圧、体重の低下とともに、尿蛋白が大幅に減少した。
- 介入半年後には eGFR の低下速度が減少し、透析導入時期の延長ができた。

その他

- 皆野病院以外の医療機関との連携が課題である。